

## 令和6年度第2回 江別市子ども・子育て会議要旨

日 時：令和6年7月8日（月）14時～

場 所：江別市保健センター3階 会議室

出席者：江別市子ども・子育て会議委員 13名

藤野友紀会長、石塚誠之委員、泉考昌委員、岡幸代委員、金子大吾委員、久保田直樹委員、齋藤奈緒子委員、佐藤一希委員、鈴木善大委員、高橋祐子委員、松本和也委員、村山昭二委員、八木橋源委員

江別市（事務局）7名

金子子ども家庭部長、深見子ども家庭部次長、  
気境子育て支援課長、浅木子ども育成課長、  
須藤子ども育成課給付係長、本田子育て支援課子育て支援係長、  
小林子育て支援課子育て支援係主査

傍聴者：1名

○次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 議事

（1）協議事項

議題1 第3期江別市子ども・子育て支援事業計画 骨子案について

**藤野会長**

では早速ですが、議事（1）協議事項、議題1、第3期江別市子ども子育て支援事業計画骨子案について事務局からお願いいたします。

**小林主査**

第3期江別市子ども子育て支援事業計画の策定について、まず概要の方からご説明いたします。

まず資料1-1をご覧ください。

1、市町村子ども子育て支援事業計画についてですが、この計画については、子ども子育て支援法に基づき、5年ごとに策定が義務づけられているものです。

内容ですが、保育園や幼稚園、認定子ども園、それと放課後児童クラブ等の地域子ども子育て支援事業に係る量の見込みと、提供体制の確保について定める事業計画となります。

また、それ以外にも市の展開する様々な子育て関連施策の充実を図るための目標や取り組みを定める計画でもあります。

現行の第2期計画が、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画となるため、令和7年度から第3期計画を令和6年度中に策定する必要があるものです。

なお、計画は令和6年4月からスタートしております、まちづくりをする上での最上位計画である江別未来づくりビジョン（第7次江別総合計画）をはじめ、関連する個別計画や事業計画との整合性を図り、策定するものです。

次に、2、江別市子ども子育て支援事業計画についてですが、先ほどご説明しました、子ども子育て支援法に基づく計画であるとともに、江別市では、現行の第2期計画から、子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づく、市町村子どもの貧困対策計画としても位置付けしており、第3期計画についても同じ位置付けで策定を考えております。

次に3、策定体制ですが、子ども子育て支援法に基づき常設している、このこと江別市子ども子育て会議において、実施して参ります。

次、裏面4、スケジュール予定ですが、こちらの表は、今年度の子ども子育て会議の年間スケジュールになります。

前回の会議でもお話ししましたが、今年度は子ども子育て支援事業計画の策定、子どもが主役のまちえべつの宣言の両方の事項について、会議で協議していくこととなります。

スケジュールについてはご覧の通りとなります。

次に資料1-2、第3期江別市子ども子育て支援事業計画骨子案の説明をさせていただきます。

全体の行程から説明いたします。

方向性としては、第2期計画をベースに考えております。

第2期計画と同様、章だては、第1章から第6章とし、最後に資料を掲載するイメージで構成を考えております。

次に、それぞれの章について説明いたします。

第1章、計画の策定にあたっては、初めに、1の計画策定の趣旨で、計画策定の経緯等について整理いたします。

昨年度、こども家庭庁の創設、こども基本法の施行、こども大綱の策定など、子どもを取り巻く状況は大きく変化いたしました。

この計画策定にあたり、まずは前回から大きく変わっている点をこの趣旨の中に盛り込み整理いたします。

次に、計画の性格と位置付けで、こども大綱を踏まえた位置づけの整理をいたします。

計画の期間と対象については、前回はベースに整理いたします。

次に第2章、子どもたちを取り巻く現況についてです。

1の人口世帯等と、2の江別市の子育て環境の現状は、前回同様、過去の実績を整理いたします。

3の計画策定に向けた課題では、令和5年度に実施したニーズ調査及び子どもの生活実態調査ヤングケアラー調査の結果を踏まえ、課題を整理いたします。

次に第3章、子ども子育てビジョンについてです。

項目の変更はありませんが、令和5年度に実施した各調査の結果や、第2期計画の評価等を踏まえ、基本理念、基本目標、各施策等を整備していきます。

次に第4章、総合的な施策の展開についてです。

基本目標については、第1期のものを仮に記載していますが、新たな基本目標のもと、

各施策の詳細について整理していきます。

整理にあたっては、こども大綱はもとより、今後のこども計画への移行についても視野に入れ、また、子どもが主役のまち江別市の宣言を踏まえたものいたします。

次に、5章、量の見込みと提供体制についてです。

この章も、項目の変更はありません。

教育保育の提供区域は、前回同様、市全体で1区域を想定しています。

将来の子ども人口がより実態に近くなるように整理し、量の見込みと提供体制についても、適切な量を整理していきます。

なお、量の見込みについては、今年3月に第3期子ども子育て支援事業計画等における量の見込み算出の考え方の改訂版が出ていますので、前回との変更があれば、それに沿って算出していきます。

次に第6章、計画の推進体制は、第2期と同じような構成を考えております。

昨年度実施したニーズ調査をもとに、結果指標を設定し、目標値を整理します。

最後に資料として、昨年実施したニーズ調査の概要、生活実態調査、ヤングケアラー調査の概要、市民意見募集結果、用語説明など、第2期と同様の構成で整理いたします。

以上、第3期江別市子ども子育て支援事業計画策定にあたっての骨子案の説明といたします。

## 藤野会長

ただいまの計画の骨子案について、委員の皆様方からご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

### 議題2 (仮称) 江別市子どもが主役のまち宣言 について

## 藤野会長

ご意見等ございませんので、議題2、仮称江別市子どもが主役のまち宣言について、事務局からお願いいたします。

## 気境課長

それでは、仮称江別市子どもが主役のまち宣言についてご説明いたします。

この宣言につきましては、今年3月の当会議でも、今後委員の皆様からご意見もいただきながら、策定して参りたい旨を、事前にご説明していたものでございます。

それでは資料の2-1をご覧ください。

こちらは宣言を行う背景や趣旨、スケジュール案を説明した資料になります。

まず1の背景ですが、概要としましては、子ども施策の推進を重要としました、国の方針等も踏まえまして、江別市では、今年度スタートした新たな総合計画の中でも、子どもの幸せを第一に考え、子どもにやさしいまちづくりを重点的に行うこととしており、そうした社会の実現を目指す取り組みとして、今回子どもが主役のまち宣言を行うとしたものです。

次に、2の宣言の趣旨ですが、資料に記載の通り、この宣言を行うことにより、宣言を市民が広く共有し、まち全体で子どもを守り育てるといった目的の共有化を図り、応援する意識や雰囲気づくりを醸成し、地域一体となって実践できるまちの実現を目指すものです。

次に、3の作成スケジュール案ですが、4月の部分はすでに実施しておりますが、宣言策定にあたりまして、子どもの声を聞くため、市内の小学校中学校高校の協力を得ながら、アンケート調査により意見収集を行いました。

今後は、本日以降、8月まで当会議におきまして、内容を検討していただいたのち、9月にパブリックコメントを行い、市民意見を伺った上で、10月の当会議にて成案協議を行い、11月に宣言の発表を考えております。

次に、資料の2-2を、ご覧ください。

江別市子どもが主役のまち宣言策定にあたっての考え方案という見出しの資料になります。

後程ご説明いたしますが、本日、委員の皆様から、多くの意見をいただけるように、たたき台となる宣言の素案を、別紙5という形で準備してございます。

別紙5を後程説明いたしますので、この資料の2-2は、宣言の素案である、別紙5を作るにあたっての基本となる考え方を説明したものとなります。

まずはこちらの資料を使いまして、考え方からご説明いたします。

まず1つ目は、全体の構成についての案でございます。

宣言文をどのような構成の枠組みとするかということで、参考としまして、他の自治体の例、別紙1の資料をご覧くださいと思います。

こちらは、子どもに関する同様の宣言を行った他の自治体の一部参考資料となります。

1ページ目、年数の直近のものが一番上、愛知県清須市の発表令和6年4月7日と書かれたのが一番上で下にいくにつれ、年数が古い順の資料となっております。

それぞれの宣言の内容につきましては、2ページからとなります。

宣言の構成につきましては、最初の愛知県清須市の「清須こども・はぐくみ宣言」のように、こう宣言しますという、文章だけでできている構成のものでしたとか、2ページの一番下の秋田県秋田市のように、前文と項目文の、2段構成になっているもの、また、4ページの、一番上、「南城市こどものまち宣言」のように、南城市の「なん」なんでも前向きに取り組むまち、「じょう」情があつく、いう形で、あいうえお作文的な構成になっているものなど、いろいろございます。

また年数をさかのぼっていきますと、7ページの一番上の沖縄県沖縄市ですとか、8ページ9ページに出てくる、詩のような形の宣言もございます。全体としては、年数を遡っていくとこういう詩的なものも多いですが、最近の構成としては、前文と項目文の2段構成のものが多くなってきているのかと思います。

次に別紙2 江別市健康都市宣言という資料をご覧ください。

これは江別市で直近にした宣言です。こちらの宣言も見ていただきますと、「この願いをかなえるには」から始まり「ここに「健康都市えべつ」を宣言します」という前文があって、次に、一つという形で、「生涯を通じて」という項目がある、前文と項目文の2段構成となっております。

また資料2-2に戻り、1の構成案について、右側に構成（案）という形でイメージ図を載せています。構成案については、前文と項目文の2段構成のものがわかりやすく、簡潔で多くの人に読んでもらえるのではないかなということを考えまして、資料イメージ図案のように、前文と項目文の、2段構成としております。

次に、この資料2-2の2の題名（案）についてですが、現時点では、総合計画の未来戦略のテーマの1つに、戦略1に「子どもが主役のまちをつくる」というテーマがありまして、これを踏まえているということと、またこれからのまちづくりは、まず、子どもにとって最善なことを優先に考え、子どもを主役として考えるという趣旨を踏まえて、題名を「江別市子どもが主役のまち宣言」としております。

こちらにつきましても、たたき台の案ということで、他の意見も含めて、委員の皆様にもいろいろと意見をいただきながら、ご協議していただきたいと考えております

次に、3、前文（案）についてです。まずこの前文の中には、①として、まちづくりの土台となる総合計画の基本理念や、市政執行方針の内容を踏まえたものを盛り込みたいと考えております。

別紙3の資料をご覧ください。こちらの別紙3の資料は、令和6年度の市政執行方針の関係する部分だけを抜粋した資料になります。

資料中、3ページの、上から5行目「未来の江別を担う子どもたちは、江別の宝であります」の部分を前文の案に盛り込んでおります。

また本日机上配付しております「江別未来づくりビジョン 第7次江別市総合計画」の冊子のうち、青色の概要版の冊子を、ご覧いただきたいと思っております。

3ページを開いていただいて、「めざすまちの姿」の真ん中あたり、右側にある枠で囲まれた③のところ、ここに「子どもの笑顔があふれるまち」とあります。

「いつも子どもが笑顔でいられるよう、安心して産み育てられる環境を整えるとともに、子どもがいきいきと学べる環境づくりに取り組み、健やかに成長するまちを目指します」とありまして、この内容についても前文に含めて、案として盛り込んだものとしております。

資料2-2に戻りまして、資料2-2、3の前文（案）②、前文の案には、多くの市民の意見、特に子どもたちの意見を取り入れたものにしたいと考えております。先ほども説明しましたが、こちらは4月に実施しました、子どもへのアンケート結果の内容を反映させることを考えております。資料別紙4のアンケート結果をご覧ください。

別紙4の資料、小中高生アンケートの回答傾向についてと、見出があります。

A4の資料ですが、こちらは、4月に市内の小学校、中学校、高校で実施したアンケートの回答を集約した、概要資料となります。

アンケートの内容は、あまり難しいものとはせず、誰でも答えやすい、シンプルなものとなりました。

幸せだと思うときは、どのようなときかということを開く設問で、手書きやWebで自由に回答してもらうこととし、市内の各学校に配布をお願いしましたところ、全体で4000件を超える回答がありました。

また参考までに、実際に配布しましたアンケート用紙の例が、後ろにあります別紙参考

の資料になります。

回答結果の傾向ですけれども、自由記載ですので本当に自由に伸び伸びとしたいいろいろな多様な回答が集まりまして、なかなか型どおりの集計とか分析というのは、難しい状況ですが、大きな傾向としましては、遊びですとか、食事、睡眠に関することが多く書かれていたこと、さらにはそれらを1人ではなくて、友達と家族と、と書かれた回答がとても多くありました。

また、中には、褒められるとか、ぎゅっーとしてもらう、抱き締められる、感謝されるなど、子どもであっても、1人の人間として、尊重されたい、或いは大切にされたいといった願いが感じられる回答も少なからずありました。

年代別で大きな違いはありませんが、寝ることや、話す、おしゃべりというのが、小学生では少なかったものが、中学生高校生では多くなる傾向も見られました。

こうした子どものアンケート結果も前文の案に反映させたものとしております。

その他参考としまして、小学生、中学生、高校生の回答の1例につきましては、資料に記載しておりますので、後で読んでいただけたらと思います。

資料2-2に戻っていただきまして、最後四つ目の項目文の案。4つ目は、全体の構成を前文と項目の2段構成とした場合の、項目文の部分についての案となります。

1つ1つ列挙する項目を何にするかという案です。

ここでは、「子どもの権利条約」の精神と、総合計画に基づく個別計画の基本目標を踏まえた案を考えております。

子どもの権利条約は、子どもが持っている権利について定めた条約ですが、子どもを保護の対象としてだけではなく、ひとりの人間として認め、権利の主体として捉えているものです。

参考資料としまして、子どもの権利条約についても、机上配付しております。

この資料の3ページ目のところで、子どもの権利に関する4つの原則の説明が書かれており、次の4ページ目以降では、各権利についての説明が書かれております。

すべての子どもに、幸せに生きる権利があり、江別市は「子どもが主役のまち」を進めていくうえで、根本となる考え方となりますので、この項目の1つに含めたいと、考えております。

それと総合計画を具体的に進めていく個別計画として、「子ども・子育て支援事業計画」がありますが、その基本目標の内容も踏まえて、項目の案を考えております。

こちらも、本日参考資料として、冊子を机上配布しております。

第2期江別市子ども子育て支援事業計画概要版の資料になります。

この計画書の、5ページの真ん中から下の方、基本目標という江別市子ども子育て支援事業計画の真ん中に円があって、基本目標1、基本目標2、基本目標3と書かれております。

この詳細が、6ページから、7ページにかけて、それぞれ、基本目標1、基本目標2、基本目標3と書かれております。

1つは、「子どもが笑顔で育つまちづくり」ということで、子ども自身の育ちを支援していくという基本目標。

それと、「安心して子どもを産み育てるまちづくり」ということで子育て家庭の支援をし

ていくという基本目標。

それと、「子育てを地域で応援するまちづくり」ということで、子育て環境の充実という基本目標、この3本の基本目標は、子ども子育て施策を進めていく上で、欠かせない内容となるため、これらについても、項目文も1つずつの項目として含めたいと考えております。

資料2-2に戻りまして、資料2の4項目文案について、一番下、項目文(案)と書かれたというところです。以上のことから、子どもの権利条約を踏まえた子どもの権利の尊重に関する1項目と、子ども子育て支援事業計画の基本目標を踏まえた、子ども自身の育ちを支援、子育て家庭への支援、子育て環境の充実の3項目を合わせた計4項目を、項目文の骨格案としております。

この資料2-2の1から4までの構成案、題名案、前文、項目文の考え方を踏まえた内容のたたき台が、別紙5の宣言素案となります。

資料2-2と見比べながらこの別紙を見ていただいてもよろしいかなと思います。

まず、別紙5の出だしの3行、「未来を担う子どもたちは、江別の宝です。すべての子どもがいつも笑顔でいられ、自分らしく、健やかに成長できる社会の実現は、江別市民すべての願いです。」

この3行につきましては、総合計画ですとか、市政執行方針を踏まえた内容となっております。

次の3行、「子どもは友達や家族と、遊んだり、食べたり、あるいはゆっくり眠ったりすることを欲しています。また、みんなに褒められたり、認められたり、家族に抱きしめられたりすることで、自分自身の存在を安心して受け入れる気持ちになります。」

こちらの3行は、子どものアンケート結果を踏まえた内容となっております。

次の3行、「子ども自身が、自分の気持ちや声、自分そのものを大切にし、大切にされる感覚を日常的に体験することには大きな意味があり、子どもが個性を発揮し、自信をもって自らの未来を切り開いていく力の源となります。」

こちらの3行は、自己肯定感ですとか、子ども自身が育つ力を大切にすることを踏まえた内容としておりまして、最後の2行、「江別の宝である子どもたちが、かけがえのない大切な存在として、笑顔で健やかに成長するまちを目指して、ここに「子どもが主役のまち江別」を宣言します。」

こちらはまちが目指すべき方向性を踏まえ、宣言するという内容としております。

次に項目文ですが、先ほどの項目文の骨格案で説明の通り、

- 子ども一人ひとりが権利の主体であることを大切にし、その人格や個性を尊重します。
- 子ども自身が自らの力で心身ともに成長し、未来に希望を持って、今を生きることができるとまちづくりに取り組みます。
- 誰もが、安心して子どもを産み、育てることができる環境づくりを進めます。
- 家庭や学校だけでなく、地域社会全体で、子どもの健やかな成長を支え、応援します。

まず1つに、何よりも欠かせない部分として、権利条約を踏まえた、子どもの権利の尊

重について設けて、次の3項目は、子どもや子育て支援に必要な3つの柱、考え方として、子ども子育て支援事業計画の基本目標を踏まえた内容についてということで以上4つを項目として、列挙しております。

また下の段に、解説をつけておりますが、この枠内の最後の2行にも記載の通り、今後、江別市が「子どもの笑顔あふれるまち」を目指していくにあたっては、常にこの4つの観点を基本姿勢としながら、子ども関連の施策を進めていくことなども踏まえて、項目文の骨格案をこの4項目としたものでございます。

説明が長くなりましたが、たたき台となる皆様方からご意見をいただくための宣言の素案の内容は以上となります。

今説明しました、この別紙の素案につきましては、委員の皆様からいろいろなご意見アイデアをいただくためのたたき台として策定した案でございますので、もっとこうした方がいいのでは、とか、こういう表現に変えたほうがいいのでは、など、先ほどもお願いしましたが宣言の題名も含めまして、たくさんの意見をいただければいいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### **藤野会長**

ではただいまの宣言の素案について、委員の皆様からご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

#### **金子委員**

題名の部分ですが、資料を見ていて子どもが主役のまちの、この「主役」がすごく引っかかっていて、これは宣言の中にもどこにも出てこないのですね。これはどこから出てきたのかと見てもわからないし、解説のところには子どもの笑顔があふれるまちと書いてあり、こちらの方がじっくりくるのかなという気はしました。

主役と書いてしまうと、子どもの権利を過剰に持ち上げているような気がして、同じだよ、というような、子どもも大人も差別はないよ、ということを示したほうが良いのかなと思いましたが、他の自治体のどれを見ても主役とは書いていないので、これだと行き過ぎではないかなと考えたので、もう少し差がないような、宣言の方がいいと思いました。そこを考えてもらえたらなと思います。

#### **気境課長**

ありがとうございます。タイトルも含めて、いろいろな意見を皆様からたくさんいただいた上で、いろいろ検討したいと考えておりますので、ここでこうしますとは言えませんが、他にこのタイトルの部分で、いろいろご意見いただけたらありがたいなというところがございます。

#### **藤野会長**

今、タイトルに絞ってご意見を集めますか。

## 気境課長

そうですね。

全体についての意見というより、順序立てていろいろ聞いていただいた方がいい、決定しやすいということであれば、まず、ここのタイトルの部分で、皆さんから何か意見をいただけたらなと思います。

## 金子部長

タイトルはすごく重要なので、意見をいただくだけではなくて、賛成意見反対意見があれば、皆さんで議論していただいて、ある程度方向性を固めたほうが我々の直しがきくので、その方が助かります。

## 藤野会長

皆さん、ほかの何か全体に対しての質問とかも寄せていただいた上で、タイトルからいきましようか、と進めたほうがいいですか。

ではタイトルについては後程対応するということで、それを集中して議論したいと思うのですが、今、金子委員からタイトルについて、質問ご意見いただきました。

その他はもちろんタイトルに関してでもいいですしその他のことに関しても、ご質問ご意見あれば忌憚のないご意見いただけたらと思います。

## 泉委員

一市民の意見として、このまち宣言は必要ですか、というところが私の意見です。

ここの宣言の趣旨に、宣言を行うということで宣言を市民が広く共有し、まち全体で子どもを守り育てていくという目的の共有化を図り、とあります。

別紙の2に江別市健康都市宣言がありますが、これは平成29年に宣言されていますが、この宣言、私知らないのです。もう何年も前に宣言されたものを、一市民はほとんど多分知らないのではないのでしょうか。江別市子どもが主役のまち宣言、これをどうやって共有するのかなとも思います。共有できないのなら、宣言する必要はないのかなと。

私、スマホで江別市健康都市宣言を調べて、江別健康都市宣言、1番最初に出てきました。ただ江別市と入れたら出ません、健康と入れても出ません。江別市宣言と入れたら出ます。

一般の方は江別市の宣言を多分調べないと思うので、この宣言どのように共有するのかなと、まずそれが1つ質問です。それはどのように考えられますか。

## 気境課長

今年は、江別市の市制施行70周年を迎え、新たな総合計画がスタートした節目の年でもあり、これから江別市の様々な分野で、子どもの視点から施策について考えていきたいと思います。市の政策部署だけではなく、まち全体で子どものことを主として考えていきたいと思います。ということ浸透させていく1つの取り組みとして考えております。今後は、子ども支援だけではなく他のあらゆる施策についても、子どもを中心に考えていくための宣言と考え

ております。

今委員がおっしゃっていた通り、これをどう皆さんに周知していくか、というのは一番重要なところですよ。11月の市政執行方針では、各メディアに対して宣言を予定していますが、それ以降の周知としてオーソドックスなパターンとしては、広報とホームページ。ただ、これだけではなかなか浸透しないのかなという部分で、お子さん方が通う学校などにわかりやすいもので、こういう宣言作りしました、と周知するとか、そういったいろいろな媒体を考えなくてはならないとは考えております。こうやったら広がるのではないかというような意見も、こちらの会議でご意見いただけたらと考えております。

## 泉委員

私もそうですが、皆さん携帯をさわられる、YouTubeとか見られますよね。YouTubeとか皆さん自分に関係ない広告出ますよね。結構広告が出ることはあると思いますが、ほとんど自分が以前に検索した結果などのデータが出やすい。同じだと思います。市民がこういうものがあるのだと知るためのきっかけとして、それかなと思います。

情報、市民や私たちが求めるのではなくて、こちらから無理やり送るダイレクトメールのような形で、求めてないけれども送るというスタイルが取れたらもっといいのかなと思います。

掲示板に貼ってあっても、私はほとんど見ません、何か貼ってあるな、という位です。マンションの入口に貼ってあるお知らせも殆ど見ないです。いつも同じでゴミステーションを綺麗にしましょうとかそういうのばかりなので全然見ないです。

ただ、スマホに関しては見ます。見ないと動画見られないので、そういう送り方もいいのかなと思います。

もう1つですが、先ほど子どもが主役ということでお話されましたが、大人が考えては駄目ではないでしょうか。今私たちが色々と話していますが、子どもが主役ということであれば、子どもに考えさせればいいのではないのでしょうか。

子どもが考えたものを誰かが宣言しなくてはいけないのは、市長であったりします。

市長は、子どもたちのまとめた「子どもたち、僕たちが主役です」というのを代弁する形が理想なのかなと思います。

その中で、誰が子どもの主役の中の主役になるのか、これは少し難しいのですが、江別市内の高校、中学校の、生徒会長を誰か1人が代表になり、僕達が主役ですと、そういうのも面白いのかなと思います。

それを市長に代弁してだいて、江別市は子どもが主役です、と。その方が説得力もあるし、いいのではないかなと思います。

## 気境課長

今国が進めている「こどもまんなか施策」の考え方としても、子どもがいかに参加し、子どもの意見を聴き、いろいろな課題に取り組んでいくか、というところが一番着目されている部分で、今回この宣言を策定するにあたり、1つの手法として、アンケートという

形で子どもの意見を吸い上げてきました。節目の年をめぐって宣言したい、というところもあり、今後のタイムスケジュールを考えると、できることに縛りが出てくる部分があります。子どもに対する意見を吸い上げる仕組みを具現化する方策については、今後市の施策に子どもたちに参加してもらうなどし、子どもの意見を吸い上げる仕組みにしていくという方法もあるのかなと思っています。

また、今年度宣言することにより、今後子どもたちが集まり意見をやる場を設けたり、具体的なものにつなげたりするためのものとしたと考えております。いただいた意見を踏まえて、これから検討するにあたり、どのようなやり方があるのか、その辺も含めていろいろ意見を聞きながら考えていきたいと思っております。

### 泉委員

ちなみにその考えるというところは、いつ頃まで決まり、どういう形で流れてくるのですか。

### 気境課長

宣言文としては、11月を目途として考えております。そこに間に合うようなタイムスケジュールですと、今回この宣言を策定するにあたり、子どもたちに考えさせるというのは難しいと考えております。宣言後、子どもの意見を吸い上げるための仕組みとして、今後子どもの意見を吸い上げる場の作り方を考えていきたいと考えております。

### 泉委員

わかりました。

### 藤野会長

1件私から意見いいですか。

今の泉委員のご意見を伺っていて思ったのですけれども、別紙の1で、他の自治体の例を挙げてくださっている。それを見たときに、大きく3つのパターンがある。

1つは今、泉委員からご意見あったような、子どもが主語になっているというか、子どもが発しているような体裁をとっている宣言。

それは5ページ目の千葉県千葉市、平成29年のものなどが当てはまるかなと思えました。

「私たちが通う学校がある千葉市」というのは子どもが主語ということですよ。

子どもが誰に対して宣言しているのかというのはわかりませんが、おそらく子どもが市民に対して宣言しているという形式なのかなと思えました。

2つ目は、市の大人、あるいは自治体全体が主語になって宣言しているのですが、宣言する対象が子どもになっているというパターンがあるかなと思っております。

それは2ページ目の愛知県清須市のものとか、3ページ目の栃木県宇都宮市などはそうかなと思えました。

私たち大人から子どもに対して、あなた方のこういう事を尊重してこういうふうなことを守ることを私たちは義務として負っているのだというような宣言にも見えますね、そう

いう形式が2つ目。

3つ目は、誰が誰に対する宣言かが、結構曖昧なのだけれども、おそらく自治体に住む大人が大人同士宣言を共有し合っているような、あるいは未来に大人になる子どもたちも含めての宣言かなと思われるようなパターンで、それは一番数としては多くて、今回の素案もそのような形式なのかなと解釈しました。

1つ目の形式の、子どもが主体となり練り上げるというものに関してはスケジュール等の関係や誰が代表になるのだということから、このスケジュールをずらさないとすれば、現実的に少しハードルが高いかなということですね。今のご説明はそうだと思います、現実的にはそうなのかなと思います。

ただ2つ目と3つ目の形態については、つまり、子どもに対して、約束したり、発したりする宣言にするのか、それともそうではない宣言にするのか。それはどちらがいいということではなくて、形式は選択するものかなと思います。

それ以外も含めて少し議論できたらいいかなと感じました。

## 金子部長

泉委員のおっしゃることはすごくもっともで、これから子どものことをその政策で考えていくときには、そういう視点ってすごく大事になっていくと思っています。

今のご意見は今後ずっと参考にしていかななくてはならない意見だと思っています。

ただ今回の宣言に関して、別紙3の市政執行方針をご覧いただきたい。

市政執行方針、これは市長が毎年予算の発表をするとき、発表というか予算の説明をするときに、市長みずからが自分の考えを述べるというのが、市政執行方針の性格なのですが、この一番後ろのページの中段ほど、「未来を担う、今の子どもたちが笑顔でいることができる社会を」と書いてあります。新しい総合計画のスタートに合わせ、子どもたち一人ひとりが尊重され、健やかに成長するまちをつくるため宣言したい、というのが、後藤市長の思いになります。

どういうまちをつくるかという締めくくりに、今年の市政執行方針は、これを持ってきた、ということです。それを受けて我々子ども家庭部は、宣言の案を皆さんにお示ししていますが、やはり先ほどからお話に出ている、子どもたちが宣言するものなのか、それとも大人が子どもを育てるために宣言するものなのかという議論でいくと、今回は、大人たちが子どもたちのために、どういうまちづくりをしていきたいかという宣言をするものだと認識した上で、案をお示ししているのです、その辺は少し考慮しながらご議論いただければと思っています。

それと先ほど泉委員の方から、そもそも必要なのか、というお話がありました。

ここについては、この青い冊子を後程じっくりご覧いただければわかると思いますけど、これは総合計画、市の政策でして、いろいろなものを平等に盛り込んでいます。

これはこれで市の最高の政策方針ということではありますが、この中で特に今年、今回は市長が、この中で特に子どもの政策に力を入れていきたい、そのためには、今年宣言をして、江別は子どもに力を入れていきますよ、というふうに宣言したいというのが、今回の宣言の趣旨というふうに考えております。以上です。

## 鈴木委員

タイトルのことに関して言えば、金子部長のご説明の通り、大人から子どもに対してと  
言うことであれば、「主役」というよりは、もう少しシンプルに考え「子育て応援宣言」と  
かのタイトルにはいかがかと思えます。江別市が現在、施策として、子どもの子育て  
を確り様々な形で支援をしているという方針ですので、その施策を踏まえたタイトルにす  
るのが一番わかりやすいのではないかなと思えます。

今回、提示の宣言は、素案ということなので、これから宣言の文面内容は修正されてい  
くものと思いますが、私はキーワードとして、この素案の中には、一言も触れていません  
が、宣言の内容に是非「学ぶ力」または「学び」というキーワードと、「いじめ」という2  
つのキーワードは必ず入れていただいた方がよろしいのではないかなと思えます。

なぜかと言うと、資料別紙3の市政執行方針の3ページの一番下から3行目、「いじめ・  
不登校などの様々な解決に向けた取り組みなど」と記載の通り、市政執行方針に「いじめ」  
というキーワードが入っています。また、資料2-1の1. 宣言の背景においても「不登  
校児童やいじめの増加」ということで、いじめが増えているということが、子供を取り巻  
く社会状況は深刻化の一途をたどっていると認めていることとなりますので、江別市とし  
て、いじめは許さないという強い気持ちを込めて記載は必要と思えます。それと、江別市  
の象徴として市のプロフィールにも研究学園都市の街と紹介しています。市内には4つの  
大学があり、私立の中高一貫校として立命館慶祥と公立高校もありますが、とわの森三愛  
の私立の高校もあります。また、市内には12ある認定保育園含めて、伝統のある私立の学  
びの保育施設が充実しています。学びについては、この先、教育格差ということが広がっ  
ていくと思えますので、江別市としては、学びについては確りと子供たちをフォローして  
いきますよ、ということ、研究学園都市である街らしく、宣言の中にキーワードとして、  
盛り込んだほうがよろしいのではないかなと私は考えます。

## 藤野会長

テーマを含めて、具体的な文言のご提案ありましたが、他にいかがでしょうか。

## 久保田委員

市長の方からも、「子どもの笑顔があふれるまち」にしたいというお話も出ているので、  
子どもが笑顔になるためにはどうしたらいいかなと考えたときに、やはり親が笑顔になら  
ないと、というのが根本なのかなと私はずっと思っていて、なので子どもの主役とところ  
ではありますが、例えば「江別市子どもそして親が笑顔になるまちづくり宣言」とか、親  
同士の繋がりづくりを意識した、いろんな施策が出てきたり、親が幸せになったりするこ  
とにより子どもが笑顔になるというところを、市民の方達が意識するようになれば、地域  
もいろいろ変わってくるのかなと思うので、全体的にそんな親のところも意識した素案を  
作っていただけたら嬉しいなと思いました。

## 岡委員

先ほど泉さんがおっしゃったように、この宣言をすることにより、宣言前と宣言後で変

わかることというか、具体的に例えば札幌市であれば、子どもの権利条例があるので、アシストセンターが機能しているかと思うのですが、江別市で子どもが主役のまち宣言した後、このようなセンター的な、具体的なものがあれば、そこを利用していくではないですか。例えば、いじめがあったときに、そこに相談して、家族、当事者の間に公的な第三者が入り込んで話し合いを横の繋がりで進めていくとか、そういったセンターがあればまちづくり宣言してよかったなとなるし、それを周知してもらえれば良いと思います。

あともう1点、項目1、「子ども一人ひとりが権利の主体であることを大切にし、その人格や個性を尊重」の尊重のところ、1歩踏み込んで、こども基本法と大綱などで、その意見を尊重するから、子どもの意見を反映するとなった点がすごく大きかったと思うので、江別市の宣言の中にも反映という言葉を入れていくと少し踏み込んだ感じになるのかなと思います。その2点お願いします

### 気境課長

宣言後の、具体的な動きにつきましては、この宣言文を考える中で、それを具現化するためにどのようなことをやっていくのかを一緒に検討していくことになると思います。

あと、2つ目の反映という言葉についても、こども基本法や大綱などができた中で、意見を反映していくというのが、あちこちで出てきているフレーズだと思いますので、他の委員からもいただいた、学ぶ力やいじめといったキーワードも含めて、次回素案を示すときまでに内容を検討したいと思います。

### 藤野会長

子どもが意見を表明する権利の尊重とそれを反映した施策ということですね。

### 岡委員

子どもの意見を尊重と書かれていますが、尊重では弱いと思います。

### 藤野会長

でもそれは子どものその意見を表明する場や、表明する機会というのを、こちらは設ける必要があるということですよ。

今泉委員がおっしゃっていたようなところを実質的に活動の中でというご提案ですね。

### 齋藤委員

子どもたちがみんな褒められたり、認められたり、家族が抱きしめられたりするところで違和感というか、アンケートの中でギュッとしてもらうことが、確かにすごくかわいらしい子どもの意見だと思ったのですが、すごく性差ですとか、子どもの年齢よっても、いろんな問題を含んでいるキーワードになると女性の立場として思ってしまうので、これは宣言のキーワードとしてはふさわしくないと思う方もいらっしゃるのではないかなと思ったのと、いろいろな方のご意見がありましたが、いじめとか、学びを守るというキーワードを入れると考えた時、そのアンケートはそもそも不登校の子どもに届いてないので

はないかという気持ちがあり、普通に学校に来ている人に向かってしか子どもの意見を取られていない。11月の宣言からそこに戻っていたらスケジュール的に無理かなと思いますが、もう少しいろいろな子どもの意見を拾える機会があると良いかと思いました。

あとはふんわりとした質問だけではなくて、もう少し子どもが困っていたり、こうなったらいいな、と思ったりすることが何なのかということをも具体的に聞けば、いろいろな子どもの気持ちが上がってくると思います。

今すぐには無理かもしれませんが、そういうことも必要かと思いました。

## 石塚委員

今回の調査で小中高生にアンケートをして、一応その傾向分類するのはとても大変だったと思いました。このような調査をしたことの意味は、実は個人的には大きいと思います。実際に私も子どもたちに調査をしてアンケートすることがありますが、子どもたちの意見をこちらが受け取りたいアンケートというのは、そのように集まる場所もあるが、少し偏るところもあり、今回のアンケートというところで、課題があるところではあったと思いますが、「幸せだと思えることってどんなとき」というのは、全学年、それぞれの子どもにとってシンプルに子どもたちの発達に合わせた回答が出やすいと思いました。

ただそれがどのように生かせるのかというのはまた難しい問題だと思いますが、今回の宣言がすべての子どもたちのもの、というか、私は障がいがある子どもたちを対象に支援をしたりするので、それも含めてこの子どもという捉えで、子どもたちにとって何ができるのかということをも世間の中で伝えるのかと読み取り、話を聞いていました。

その大枠でいうと、そんなに気になるのはなく、この素案を見たときに、上から4行目に「友達や家族と遊んだり食べたり」のところ、遊んだり食べたりというところでは、確かに遊んだり食べたりなのですが、「一緒に」というところがキーワードとしてはあるのかなということが1点ありました。

あと、市長の市政執行方針の中でも、キーワードとして、何が気になるのかと考えていたなかでは、えべつ未来戦略の戦略1の3ページの下の方に、「子どもたちが将来の夢や目標を持ち」というところは、どこかで入れられるのかとあっていて、そのような辺りを入れて、宣言としては、子どもたちが中心であることをこれから目指すということと、今後そういうことも目標にしながら何かしらの活動をするということが入りつつ、ある程度サポートするような、そんな宣言になればいいのかなと思っていました。

小中学校、高校、大学も多くて、大学生が多いと言われているので、そういう施設や人材を活用できるということが、これから子育てとか、子どもを育てるといって、この辺は何かないかなというのが、考えたところです。

## 気境課長

斎藤委員と石塚委員からいただきました意見につきましても含めて、素案の方、考えてまいります。

先ほどの斎藤委員からご質問ありましたそのアンケートの取り方の部分ですが、詳細までは確認はしていませんが、基本的に全校生徒配布なので、なるべく皆さんに配布される

よう、学校でもらっていないなくても、休まれているお子さんにインターネットから回答できるような形で配布されているのではないかなと。そこは確認していませんが、全員に対して、投票箱に入れなくても WEB で回答できるようにしていただくようお願いしておりました。

あと、内部でも、抱きしめられたりというキーワードの部分については、当初「家族に」と付けていませんでしたが、このただ抱きしめられたりというのは悪用されたりするのではないかという意見もあり、「家族に」という部分をつけて素案作りしましたが、それでも違和感があると感じられているのかと思います。

そちらにつきましても、素案をつくり直す段階でもう少し検討したいと思います。

## 村山副会長

ここに書かれていることは、幼稚園の日々の教育目標です。新しいことを書いているのではなく、日々やっていること。

資料 2-2 の一番下、項目 4 の骨格のところに、子どもの権利の尊重がありますけれども、子どもの権利が守られてない事例はどういうことなのか。

子どもが笑顔で育つまちづくり。子どもが笑顔でないときは、どういふときなのか。

安心して子どもを産み育てる。安心できないときは、どういふことか。

例えば、江別市立病院しか産婦人科がありませんから、そういう意味では、意外と安心できないまちなのかなと思ったりもする。

江別市長さんのおっしゃることは私よくわかりますが、その宣言を、どう政策に結びつけるか、これがポイントですよ。

政策がないのに言葉だけ羅列しても、例えば言葉ができて、例えばうちの幼稚園ではそれは宣言しなくてもうちでもやっておりますというね。

しかし、行政がそれをやるということは、政策をどういふ形で担保するか、ポイントはそこにあるのです。宣言の言葉ではなくて、政策ですよ。

その政策抜きにして、その宣言だけをまず完成させるということは、これはなかなか難しいだろうなと思うし、政策まで読み取るということも、なかなか難しいし、どうしたらいいのだろうなという思いが、先ほど、それぞれのお話を聞いて、そう、親が笑顔でないと、子どもは笑顔でない、その通り、親はどうして笑顔でないのかなあというふうにと考えるとね、経済的に苦しいだろうなとか。対人関係が厳しいのだろうかと思うと、それを取り除かなくてはいけないではないですか、少し大きな言い方をすると。

そうすると、子どもだけに視線を集中して言葉を選んでも、大人の方のための政策の対策はないのにそこで笑顔は成立しないと思う。

ということを見ると、もう少しこの一番下のところの骨格というところと、その市長さんがこれから考えようとするいわゆる政策を、もう少しこう考えていただくというか、その辺が、必要なのかな。

いや、宣言文ができたなら、できたなら政策もついてくるのかなあとかね。

その辺の順番がよくわからないので、単なる意見ですが。

## 気境課長

何をやるのかという具体的な策に尽きるのは間違いない話です。副会長のおっしゃるとおりなかなか難しく、節目の年のこの時までには宣言をすと考えますと、理想的な宣言を掲げ具現化するために、個別支援計画やその宣言にならい、政策を考えていくという手法で取り組まなくてはならないと考えておりました。理想は、今の段階で実際にすることと結びつけばいいのですが、短時間で具体的な政策をまとめ上げることはなかなか難しいという現実があるので、まずは宣言をし、政策を具体的に考えていく、と考えています。

## 金子部長

今日の議題 1 に、子ども子育て支援事業計画の骨子案に基づいて、次回以降、計画の具体的な中身を皆さんに、議論していただくことになっています、ある程度こちらから案を提示します。

5 年の計画ですから、今年宣言をして、そして今年、策定作業する計画で全くそれを反映しないということにはならないと思う。

村山副会長の言われた通り、今回宣言をしたが、当然その具体策は、この今後 5 年間のこの計画で、それを踏まえながら施策を検討していくという流れになる。

何とかセンターを作るとか、そこまで踏み込めるかどうかというのは、なかなか厳しいものもありますけれども、あくまでも宣言をして終わりではなくて、この宣言を踏まえて計画を作っていくので、この宣言が計画に反映されるつもりで、僕らは作業しなくてはならないと思っています。

## 金子委員

意見と質問が 1 つずつあります。

まず、前文の 2 つ目の子どもはなにがし、という部分です。

友達や家族と遊んだり、誰がいいというところ、アンケートの結果を反映しましたというお話がありましたが、意見をここに詰め込んだ感がすごくある。子どもたちのアンケートの結果を反映した文を作った方がいいのでは。ここに詰め込んで子どもたちのことを聞いたでしょ、だからこの一文だけですよ、と見える。

ここだけすごく強引な感じもするし、ここに書いてあることが好きではない子どもも当然いると思うので、ここに一文で書いたから、ということではなく、前文の中に子どもたちの意見を反映したような形の方がいいと思います。

それから 2 つ目ですけども、この宣言というのは、解説文がついていますが、実際にもつきますか。

## 気境課長

そうですね。

実際にも、解説文がつきます。

## 金子委員

つくのであれば、宣言自体は長いと読みにくくなると思います。

あとはそもそも読まないで終わってしまうので、ここは元の考え方にもあるように、簡潔でもいいと思う。解説文はもう少し詳しく書かないと、先ほどの「尊重します」ではなく、「反映します」という部分について、もう少し踏み込んで書いていけば、宣言としては簡単なものになるが、一緒に解説がついていることにより、どういうことがしたいのかというのがわかりやすいのでは、と思うので、解説文を少し充実したらどうかと思います。

## 気境課長

解説文とセットというよりは、宣言文は宣言文で出して宣言文を説明するときに、こういうことです、という解説で使う、宣言とセットのもので考えております。ただ、今おっしゃっていたとおり、詳しく解説することで、宣言については長く設定せず、宣言を補足できる解説などという部分もあるかと思っておりますので、参考にさせていただきます

## 佐藤委員

今、4行目の部分の話が出たので、これはアンケートをもとにして書いたということで、「ゆっくり眠ったりすることを欲しています」という表現が少し気になっていて、少し質問の意味と変わってくるのかなと思う。子どもたちはやはりあくまでも幸せってどんなときということで回答しているので、単純に何々することを幸せに感じていますと表現した方が何かいいのかなと感じました。

## 藤野会長

他いかがでしょうか。

先ほどタイトルについてのご意見もいくつかありましたが、趣旨として、子育てをしている家族というか、家庭を応援する宣言なのか、子どもが尊重される社会を作っていくことを宣言するのか、ご意見はいくつかあったかと思いますが、その2つ似ているようで、宣言としては異なるような気がします。

この素案としてはどのように考えているのか確認したいです。

## 気境課長

素案としましては、後者の方で、子どもを尊重していくという趣旨になった宣言にしたいと考えておりました。

## 藤野会長

ありがとうございます。

その方が私もいいと個人的には考えております。つまりその自治体の宣言ですので、もちろん安心できる家庭、家族であることが望ましいですが、家族家庭は、様々でありまして、どういう家庭、どういう家族であったとしても、子どもが健やかに育つことができるということを保障していくというのが自治体の立場ということを確認するためには後者

の方がよろしいかなと考えます。他はいかがでしょうか。

### 金子委員

今のお話に繋がるところで、子どもの権利の方を主体にしたいというところですが、これを読んだときの感想としては、後者でなくて前者のほうのまちづくりの方を言いたいのかなと読み取ってしまいました。なので、子どもの権利を尊重するような、反映するよというところを主にするのであれば、項目文が全部一つというように書いてありますが、実は1番が大事で、それをするために下の3つがあるのかな。この書き方は全部並列になっているので、子どもが主体ですよというのが1個しか無く弱い感じがするので、下の3つはそれを実現するためにこういうことをやります、というような構え方の方がいいのかなと思いました。

### 気境課長

いろいろいただいた意見と合わせて、検討したいと思います。

### 金子部長

子どもの権利というお話になっていますが、ここに4つ示してある通り、今までの政策は、今までは子育て応援というのを中心でやってきましたが、そこから少し方向転換で、ちゃんと子どもの幸せを考えましょう、というのを打ち出していきたいと思っています。

それは必ずしも子どもの権利と全くイコールということではなくて、子どもの権利を大切にするとか、きちっと守るということも1つですし、その他にも学びを大切にするとか、健康な成長を大切にするとか、子どもを幸せにするためにいろんなことがある、それがこの4つではないか、という考えのもとに、柱は4つだと考えています。

なので、金子委員さんおっしゃったように、権利を第1に持ってくるのだったら、権利のために、その下に幾つか付くというのかもしれないですけど、それだと本当に権利のための宣言になってしまうので、少し狭くなっちゃうかと考えてはいます。ただ皆さんのご意見が、そうすべきだということであれば、そのような宣言にしてもいいのではないかと考えています。これはぜひ皆さん、ご意見をいただきたいなと。

### 金子委員

ということは、子どもが主役のまち宣言という話でしたけども、子育ての部分だとかというところも大事だよということですよ。

そうすると、先ほど他の方からも意見が出ていたようなその子育てを応援するような宣言という名前の方が、より良いのかなというふうに思います。

### 金子部長

子育てというのと、子どもが育つというのは、若干ニュアンスが違うというか、やることを考えると違ってくると思うのですが、子育てはあくまでも、子どもを育てるのは、基本的に家庭だったり、親だったり、今までは保育園を整備したり、どういう制度を用

意したりという、子育て環境の充実を中心にやってきた。

そうでなくて教育もそうだし、あるいはもしかしたら福祉にもあるかもしれませんが、虐待防止とかもあると思いますし、そういう意味では子どもの健やかな育ちというのも、子育て環境の整備と両立して大事なことだと思っています。

この2つが非常に大事で、もしかしたら、それと並列ではないのかもしれないですが、今まではあまり注目されてこなかった子どもの権利というのも、非常に大事だと思っています。我々はそこを並べて、もう1つは、地域ぐるみでというふうに並べましたが、ひよっとすると、権利がベースにあるみたいな、そういう考え方を取る、権利がベースにあって、子どもの育ち、それから子育て、そして、地域で応援するみたいな、そういう考え方も取れるかもしれないな、と今お話をしているところです。

### 金子委員

聞いていると、子どもが幸せになるためにはどうしたらいいか、というところで話していくのが良いと思いますが、いかがでしょうか。

### 藤野会長

この流れで、最初に出ていたタイトルの議論に行った方がいいですかね。

いろいろどれも大事ですけど、今素案で出ている「江別市子どもが主役のまち宣言」というタイトルでいくのか、それとも今いろいろなご意見がありますが、他のいい案が、自分ピッタリ！みたいなものがあれば、案を出していただく中でじっくりくる仕組みとなっていくふうに、みていった方が中身の構成みたいなところも、第2の素案を作っていたできやすくなりますよね。どうでしょうか。

では最初の質問のところ、議論の最初に戻ります。タイトルについて、こういった案があるというものがありませんでしたら。

### 金子委員

最初にも言ったが、解説の一番下に、「子どもの笑顔があふれるまちを目指す」と書いているのでそれがいいと思う。

そこを実現するには、その親も笑顔でなくてはいけないとか、そのために環境を作らなくてはいけないところがあるので、ここにやりたいこととして書いている中で、これが宣言の名前なのではないかなと思う。

### 藤野会長

すなわち、どういうタイトルでしょうか。

### 金子委員

「江別市子どもの笑顔があふれるまち宣言」が良いと思います。

### 鈴木委員

タイトルで言えば、既に市内の子どもたち 5,000 人に「しあわせだ！」と、思うときってどんなとき？と、どんなときに「幸せ」と感じるのかを聞いているのであれば、例えば「江別市子ども幸せ宣言」などとしたほうが、子どもたちに対して、自分の意見が宣言で生かされていると結びつくと思うので、「幸せ」というキーワードを入れたらいいと思います。

#### 藤野会長

江別市子ども幸せ宣言ですか。

#### 鈴木委員

アンケートで、子どもたちに「幸せって何ですか」と聞いているのであれば、5,000 人の子どもたちから色々な意見があり、それを元に、このような宣言が創られたということ、子どもたちにも、自分たちの意見が反映されているのだということが結びつくのではないかと思います。タイトルには「幸せ」という言葉を入れ、前後に「子ども」の文言をどこに入れるかとか、そこは委員の皆様方のアイデアを頂きたいと思います。

「幸せ」というキーワードは、タイトルの中に入れたほうが良いと私は思います。

#### 齋藤委員

前文以降のところ、一つと書かれているところですが、色々な市町村のものを見ると、主語が統一されているとすごく伝わりやすいと思いました。子どもが読むにもこの項目は、自分にこのような権利があるということは、分かりやすくないと伝わらないと思う。栃木県佐野市は「すべての子どもは」が主語になっています。これを読むと、子どもも知らなかった権利を知り、今の自分の状況おかしいのかなと思っていることが少しわかるのではないのでしょうか。今の 1 つ 1 つの項目は、子どもには伝わりづらいと思います。

#### 藤野会長

子どもが読んだときに、自分たちのことだとわかりやすいようなメッセージで、というか、気づきが入れるような。

#### 石塚委員

このタイトルを見ていて、子どもが中心ということをお願いしたいのだなとずっと考えていて、それを言い換える言葉であったり、あとは多分概念的なものであったりするのかなと思、そう考えていたのですが、中心とかというところよりは多分主役の方が少しマイルドになっていて、それ自体は宣言のそのタイトルとしては、わかりやすいものになっているのかな。と 1 周回してみるとそう感じるころはありました。

ただ先ほどその幸せっていうキーワードを入れてはどうかという点に関して私も少し面白いなというか、子どもたちとね、そういう幸せについて考えたというものをどこかに反映されるというのは、1 つの方法かなと思っていて、これでも特にこちらいいかなと思っていたのですが、そういう考え方もあるのかということで、アイデアとしては、どこかにうまく入れられたらいいのかなというのは、文章なのか、タイトルなのかわからないと

いう、考えたところです。

#### 久保田委員

今の幸せというところでいくと、文面としては、漢字ではなくひらがなだと何か温かい感じがすると思いました。

#### 藤野会長

表記ですね。

#### 久保田委員

表記です。

#### 金子委員

先ほど自分でも解説の一番下のところにある、子どもの笑顔あふれるまちと言いましたが、鈴木さんの話を聞いて幸せというキーワードを入れるのはいいなと思いました。

なので、例えば「江別子どもしあわせのまち宣言」みたいな、そこでさっき久保田さん言った通りひらがなにするとかでも良いのかなと思ったので、何か「しあわせ」というキーワードを入れたいなと思います。

#### 石塚委員

1つ懸念点かなと思ったのは、その調査をしてベースにしているものがないと、その幸せというものが、タイトルだけ見たときに浮いてしまうのかなと思ったので、先ほど解説をつけていただくことがあるとお話していたので、それとセットで生きると思いながら考えていました。

#### 藤野会長

それで言うと、その解説のところで、今は子どもへのアンケートでと書かれているのですが、どのように聞いたかというところをに入れたら繋がるということですかね。

#### 高橋委員

皆さん「主役」というのが引っかかっているのだと思いますが、私は引っかかりませんでした。きつとこの「主役」を、市長さんも使いたかったのだろうし、私も「子どもが主役のまち」がいいとずっと思っていました。この子どもが主役という、もし言葉を使うのなら、子どもの権利の中には、子どもは意見を言えるという項目があると思うので、その子どもの意見を尊重し反映するという部分をもう少し入れたら、子どもが主役、子どもで決めていくとか、そのようになるのかなと思いました。

アンケートの結果の文で、私もやはり家族に抱きしめられるというのがとても嫌だなと思いました。私は「子どもが主役のまち宣言」でいいと思っています。

### 藤野会長

はい。ありがとうございます。他はいかがですか。

### 村山副会長

今日決定するの。

### 藤野会長

今日ではないですよ、今日は意見をたくさん出していただくまでです。

### 気境課長

たくさんいただいた意見を集約しまして、次回お集まりいただく時までには、1 案になるか2 案になるかわかりませんが、その案で再度意見をいただけたらと考えています。

タイトルも、1 個だけに絞らず、2 個出たら2 個の案ということで出させていただき、協議いただけたらと考えております。

### 藤野会長

よろしいでしょうか。言い残したことはありませんか。

### 金子委員

1 案に絞るのではなくて、タイトルと本文の部分は多分繋がっていると思うので、子どもが主役のまち宣言だとしたらこういうのにしますとか、この幸せというキーワード入れたらこうしますというような、全然違う内容になっても構わないと思うので、今あがっていたのを基にいくつか作ってもらえると嬉しいなと思います。

## 4 その他

### 藤野会長

皆様、たくさん意見出ましたけれどもよろしく願います。

では議論、出尽くしたようですので、次第その他に入ります。

その他について皆さんから何かございますか。

### 鈴木委員

少し気になったことがあり発言させていただきます。先週、4 日の木曜日にNHKの夜7 時のニュースで、「朝の小1の壁」ということがニュースで取り上げられていました。

子どもが保育園・幼稚園から小学校に進級し、朝登校する時間が、私が住んでいる地域の小学校は、朝8 時5分でない校門が開かない。

私の家庭は夫婦共働き世帯で、朝7 時半とか日によっては7 時に家を出ないといけない。冬の期間は、朝7 時前には家を出ないと職場に間に合わない。いまお世話になっている認定保育園は朝7 時15 分から子どもを預かっていただいているので、大変助かって

います。

今後、江別市では検討することがあるのかどうかを含めて、いまこの会議での場で議論するということではないのですが、NHKニュースでは、こども家庭庁が、今年の秋に実態調査をするということも放送されていました。江別市でも、多くの子育て世代を江別市に取り込んでいくということであれば朝の小1の壁は取り払ったほうが良いのではないかと思います。NHKニュースでは、実際に取り組んでいる大阪府豊中市の事例を併せて紹介されていました。そういう子育てに関連するニュースがありましたのでぜひ江別市でもまだという事であれば検討をお願いしたいということです。

あと、先ほど泉委員からございました意見もその通りだと思います。私も資料別紙2の「江別市健康都市宣言」が策定されていたことは全く知りませんでした。初めて見ました。結局、宣言を策定され市民の方々に、周知をしないといけないないといところで、今回行われた東京都知事選挙のニュースを見ていると、候補者の中で石丸さんでしたか、2位に入った方は、年代別で20代、30代の年代の得票率が、当選された1位の小池都知事よりも多かったとのこと。

それはなぜかということ、SNSなどインターネットを有効に活用して選挙活動を行うということは、やはり若い世代には、これまでの方法では伝わらないということが分かった。今回策定される宣言を知っていただきたい世代というのは、子どもを持つ世代の方がまず知っていただきたいと思うので、その方々というのは20代、30代の方が多いと思いますので、この議論はまた別だと思いますが、広報の仕方というのも確り、江別市としても今後、ご検討いただきたいと思いました。

## 金子部長

小1の壁に関してなんですけど。小学校に上がった後の預け先の関係ですよ。

## 鈴木委員

保育園は、朝7時過ぎから預かり保育で預かってくれるので助かっています。

共働きでどうしてもでも自分たちは朝7時過ぎには家を出ないといけない。

子どもの小学校は、朝8時過ぎからしか開きません。しかし保育園は4月以降預かってくれないので。

## 金子部長

今のところ、放課後クラブという制度があり、放課後クラブを、江別は子どもが増えているので、放課後クラブをまだしばらく整備を続けなくてはならないと思っていて、毎年2.3ヶ所、2ヶ所か3ヶ所ずつぐらい増えていますが、さすがにまだ朝預かるというところまでの制度になっていないという状況です。

それに関しては豊中市さんで、そういうことに取り組まれているのであれば、先進事例を見ながら、市町村も考えなければいけないと思っていますし、当然国もそういう制度を考えていかななくてはならないと思いますので、そういう状況、情報収集しながら、今後の検討課題と考えております。いずれにしても、まず江別は、今放課後児童クラブに待機児

童が若干出ていますので、それをまだまだ増やしていかななくてはならない。

子どもが増えているだけではなく、就労している共働きをしている家庭が増えているので、それだけでも放課後児童クラブを増やしていかななくてはならない状況になっています。

### 鈴木委員

先ほども発言させていただいた意見になりますが、江別市の特徴って何なのかというときに、研究学園都市であり、市内に私立の4つの大学、私立中・高校が2校と充実している。また子どもたちが、小学校に進級する前の子どもたちを預かってくれる先は、江別市ではほぼ民間の私立の学校法人です。

市内の私立の民間の学校法人をもっと活用して、解決していくというか、公立の学校施設だけでなく、市内の民間の教育施設と共に取り組んでいくのがいいのではないかなと、行政だけでやっていくというのはどうしてもお金もかかることだし、人手も必要だと思います。やはり民間も含めると施設はもうすでに学校教育の施設として大学から保育園まで全部そろっている街だと思います。ぜひ子育てに関するアイデアを、ぜひそういう民間の大学や高校、幼稚園などの方々のご意見とともに、子育て世代の支援を作って目指していくのがよろしいのかなというふうに私は思います。

例として当別町が、北海道医療大学が北広島市に移転するニュースがありました。当別町としては大打撃だと思います。江別市も同じことが起きてくるのではないかな。結局、いま市内にある私立の大学、中高が札幌市とか他の街に移転していくと、町は衰退していくと思います。また、幼稚園・保育園も子ども少なくなってくると同じで、いま私の子どもがお世話になっている園長先生からは、今年、市内にある12ある認定保育園の定員が満たされたのは2施設だけで、あとは定員割れであったというお話をされていた。将来を支える子育て世代は、実は足元では、既に市内では人口減となってきたということです。先ほど発言させていただいた、「朝の小1の壁」というのも、子育て関連の政策で、他の町よりも先にいち早く打ち出していけないと、子育て世代のご家庭が、結局、札幌市や他の町に移ってしまうのではないかなというところで、意見をさせていただきました。

### 藤野会長

NHKニュースではないですが、新聞に同じ問題が載っていて、放課後児童クラブが対応するのではなく、学校にシルバー人材の方が退職教員か忘れましたが、その方が学校の教員よりも早く、2名位来ていて空き教室で7時から子どもの受け入れをする、というふうな取り組みでしたね。

活用している家庭は少ない時だと、2名位ということではありますが、その実態は結構ベッドタウンだったので、通勤時間が長いので、その家庭は助かっているという話でした。

児童クラブではない形でお願いしているというところもあるようですね、はい。

他ございますか。

### 泉委員

鈴木委員のお話を聞いて、私も思ったのですけども小一の壁ということですよ。

朝開いてないから、朝は自分たちの出勤後、子どもがどこに居るのか、というようなことが問題だということ。

これは私の過去の体験談ですが、私は札幌市西区八軒で育ったのですけど、父親、母親ともに事業経営してまして、朝6時には居ませんでした。その時にどうしたかという、会社が自宅だったというのもあり、学校に行くまでの間、周りの地域の方々、自治会の方々、順番に面倒見てくれました。

やはりこのように、江別市全体で子どもを主役にしていく、幸せにしていく、ということであれば、自治会レベルで考えたほうが良いのではないかと思います。

江別市全体で何かをしよう、ではなくて、そういう子が1人、2人、地元自治会にいるとなれば、自治会でどうにかできないのかなと思います。

もちろんそのような状況は自治会が一番把握できていると思います。

隣に住んでいる方や裏のおじいちゃんなどが子どもとよく話をしている、そのような状況を作ればいいのではないかなと思います。それが一番解決するのに手っ取り早いのかなと思います。

#### 藤野会長

ファミリーサポートではない、自治会のということですね。

#### 泉委員

補足です。

もちろん自治会の中で、教育経験がない方に預けるといのはなかなか抵抗ある方もいると思いますが、自治会の会長さんや副会長さん、ボランティアなど、そのような方に手上げてもらうのであれば、1時間2時間の講習会開いてもいいかなと思います。

その上で、お子さん預かることができますよ、利用しますか、しませんか、というので良いのではないかなと思います。

#### 藤野会長

はい。他いかがですか。

はい。特にないようですので事務局から最後何かございますでしょうか。

#### 気境課長

本日は本当にいろいろなたくさん貴重なご意見をありがとうございます。

これから帰って、復習しながら次の素案に取りかかりたいと思っております。

今日配布した冊子類とかもありますし、今後1週間ぐらいの期間で気づいた点があれば、子育て支援課のご案内したメールに返信という形でご意見いただければ、それも含めて再度素案たたき台を考えたいと思います。もう1週間ほど皆様見ていただいて何かありましたら、ご意見いただけたらと思います。

それと、次回の会議の日程のお知らせですが、集中して検討していく必要がありますの

で、8月は2回開催予定しております。8月7日の水曜日と、27日の火曜日に開催を予定しております。会議が近くなりましたらご案内送りますが、ご都合がつかず欠席される場合は、ご連絡いただけたらと思います。事務局からは以上でございます。

## 5 閉会

### 藤野会長

委員の皆さんよろしいでしょうか。

それでは本会議で予定している事項についてはすべて終了いたしました。以上で令和6年度第2回江別市子ども・子育て会議を終了いたします。来月2回の会議があるということですが、どうぞよろしく願いいたします。皆様お疲れ様でした。